



編集委員が地域の皆さんにインタビュー!

消防署のない新島村で、なくてはならないのが 消防団。新島消防団・団長の前田佐一さんに お話を伺いました。

小久保：本格的な消防シーズンを迎えましたが、コロナ禍でしばらくなかった訓練なども少しずつ始まりましたね。

前田：今年はようやく訓練ができて安心していきます。新入団員の訓練ができておらず、水の出し方も何も教えられませんでした。訓練は団員自身があるので、怪我をしないためでもあるので、大事なことです。

小久保：夏の盆祭、運動会、師走祭りなどは中止を余儀なくされました。



前田佐一さんプロフィール

昭和32年4月23日生まれ、新島村本村出身
新島消防団 団長。新島高校卒業後上京、昭和51年にUターン後、すぐに消防団に入団。
平成13年に分団長を経て退団。平成19年から副団長を8年務め、平成27年より団長に。

前田：消防団の役割として防災はもちろんですが、村の大きな行事は、そのほとんどに消防団が関わっています。さまざまな関係団体と協議した上で中止になった行事もあります。夏の盆祭、大踊りは消防団の仕切りなので、大変なところもありますが、来年はぜひ開催したいです。

大踊りがユネスコ無形文化財登録されたので、見物客が島内外問わず増えるかもしれません。子供たちのためにも、店をたくさん出して賑やかにしてあげたいです

ね。コロナで何もかも自粛してきたので、活気が欲しいところです。

小久保：分団員の数や分団編成について、これからの消防団は？

前田：現在は50歳まで頑張ってもらっていますが、本村も若郷も今後は人口減少で分団員の数も減っていくので、調整が必要になるでしょう。時代の流れもあり、集まりも減り、団員同士のコミュニケーションもこれまでのようにはいきませんが、訓練や村行事への参加など、消防団活動を通じて、普段の生活からは見えない地域住民とのつながりや、配慮しなければいけない部分を団員が把握することが出来ます。

消防団でしかできない経験もあります。昔のいいところは残しつつ、改善しながら、地域の絆や地域活動の重要性を伝えていきたいと思っています。

村に消防署ができるのが一番いいのですが、簡単なことではありません。これだけの島だから、何かあったときには必ず消防団が島を守ります。消防団員は地域の防火防災の担い手としての自覚を持って頑張るので、村を守る消防団の気持ちとして村民に伝えて欲しいと思いますね。

編集後記

右も左も分らないまま始まった広報編集委員ですが、「議会だより」最後の発行を迎えました。住民の皆さんにわかりやすく、議会を身近に感じてもらえるように制作してきました。一般社団法人新島OIGEEさんにサポートしてもらいながら、広報改革を進めることができ、民間企業との協働の良い事例にもなったと思います。今後はさまざまな村の事業も、村内の団体や民間企業と協働していく時代だと思えます。4年間ありがとうございました。

小久保 利佳

広報編集委員会メンバー
委員長：小久保利佳
副委員長：木村諭史
委員：前田泉

前田寿夫
青沼弘